第25回（令和４年度第１回）岩手県スポーツ推進審議会議事録

日　　時：令和４年11月22日(火)
会　　場：岩手県水産会館５階大会議室

出席者

○　スポーツ推進審議会委員

阿部　里美　委員	内城　寛子　委員	小野　甚市　委員	小山田　浩之　委員
菅　　義行　委員	菊池　幸子　委員	木下　　淳　委員	今野　房子　委員
田中　泉樹　委員	綱嶋　久子　委員	中嶋　　敦　委員	平藤　　淳　委員

○　岩手県文化スポーツ部

熊谷文化スポーツ部長

- **スポーツ振興課**

  松崎冬季国体・マスターズ推進課長
  熊谷上席スポーツ振興専門員兼競技スポーツ担当課長
  佐藤生涯スポーツ担当課長
  菊地主幹兼特命課長（冬季国体）
  粒來特命課長（スポーツ施設）
  千葉主任主査
  佐々木主査スポーツ振興専門員

- **文化スポーツ企画室**

  佐々木主査

- **盛岡広域振興局**

  小野寺特命課長

○　岩手県教育委員会事務局

- **保健体育課**

  菊池総括課長
  千葉主任主査
  小野寺主任指導主事
  葛尾指導主事

１　開会

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

ただ今から、第25回岩手県スポーツ推進審議会を開催いたします。

本日でございますが、諸事情によりまして、スポーツ振興課総括課長が不在でございます。代理で暫時進行を務めさせていただきます、生涯スポーツ担当課長の佐藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の出席者ですが、委員13名中、会場に11名、リモートで１名御出席をいただいております。「岩手県スポーツ推進審議会条例」第４条第２項の規定により、委員の半数以上が出席していることから本審議会が成立いたしますことを御報告申し上げます。

なお、本日、中村和平委員は御都合により御欠席の旨御連絡をいただいております。

また、先に御案内申し上げましたとおり、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、本日の会議は、全て公開といたしますので、予め御了承くださいますようお願いいたします。

それでは開会にあたり、熊谷岩手県文化スポーツ部長から挨拶を申し上げます。

２　挨拶

（熊谷文化スポーツ部長）

皆様、おはようございます。岩手県文化スポーツ部長の熊谷です。

委員改正後最初の審議会となります。本日はどうぞよろしくお願いいたします。また、皆様方には、日頃から本県のスポーツ振興に御協力、御尽力いただいており、心から御礼申し上げます。

さて、９月に国内のシニア選手を迎え「日本スポーツマスターズ2022岩手大会」を開催したのを皮切りに、10月には国内外から多くの選手・観客の皆様をお迎えし「IFSCクライミングワールドカップＢ＆Ｌコンバインドいわて盛岡2022」の開催、この後、年明け２月には「いわて八幡平白銀国体」が開催されます。

プロ野球を始めとする県人アスリートの目覚ましい活躍も相次いでおり、県民のスポーツに対する関心がこれまでにないほど高まっていると思います。

また、県外に目を向けると、３年ぶりに国体が開催されるとともに、４年ぶりに全国障害者スポーツ大会が開催されるなど、新型コロナウイルス感染症に関しましてはまだまだ予断を許さない状況ではございますが、スポーツを取り巻く環境が、一歩前に進んだように感じております。これらを通じまして、全力を尽くすアスリートの姿というのは、見る人に感動を与えたり、県民の一体感を醸成したり、子ども達に夢と希望を与えるなど、スポーツのもつ効果が再認識されるようになっております。このスポーツのもつ力を地域の力とし、地域振興につなげていく。あるいは年齢にかかわらず、将来を通じ日常的にスポーツに親しむことができる地域づくりが必要となると思われます。

本日は、「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況についてお諮りするとともに、「いわて県民計画」の第２期アクションプランの策定に関しても御説明させていただきます。

皆様には、幅広い見地から忌憚のない御意見や御助言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げまして、開会にあたっての御挨拶といたします。

３　委員紹介

（生涯スポーツ担当課長）

続きまして、委員の皆様を御紹介いたしますので、資料２ページの委員名簿を御覧ください。

名簿順にご紹介させていただきます。なお、欠席者は省略させていただきます。

「岩手県小学校体育研究会　阿部　里美委員」でございます。

「富士大学経済学部准教授　内城　寛子委員」でございます。

「岩手県中学校体育連盟理事長　小野　甚市委員」でございます。

「岩手県商工会議所連合会理事　小山田　浩之委員」でございます。

「一般社団法人岩手県医師会常任理事　菅　義行委員」でございます。
「岩手県スポーツ推進委員協議会会長　菊池　幸子委員」でございます。
「カウンセラー　木下　淳委員」でございます。
「大船渡市身体障がい者協会理事　今野　房子委員」でございます。
「ロンドンオリンピックホッケー女子日本代表　田中　泉樹委員」でございます。
「ＮＰＯ法人アウルズ紫波スポーツアカデミー　綱嶋　久子委員」でございます。
「一戸町教育委員会教育長　中嶋　敦委員」でございます。
「公益財団法人岩手県体育協会副会長兼理事長　平藤　淳委員」でございます。
皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

４　会長選出及び会長職務代理者指名

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

次に、「４　会長選出及び会長職務代理者指名」に入らせていただきます。

「岩手県スポーツ推進審議会条例第３条第１項」によりまして、「審議会に会長を置き、委員の互選とする」こととなっております。会長の選出方法等につきまして、何かご意見はございますか。

事務局案をお示しすることとしてよろしいでしょうか。

（※　「異議なし」の声）

事務局案といたしましては、会長に、県体育協会副会長兼理事長の平藤委員にお願いいたしたいと考えておりますがいかがでしょうか。

（※　「異議なし」の声）

御異議がないようですので、会長は平藤委員にお願いいたします。

次に、会長の職務代理者の指名でございます。「条例第３条第３項」によりまして、「会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。」こととなっておりますので、会長から指名をお願いします。

（平藤会長）

それでは、指名させていただきます。

岩手県スポーツ推進委員協議会会長の菊池幸子委員にお願いいたします。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

それでは職務代理者は菊池委員にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

ここで、会長及び職務代理者に選任されました平藤委員、菊池委員から一言、御挨拶をお願いします。

最初に、平藤会長お願いします。

（平藤会長）

平藤でございます。よろしくお願いいたします。先ほど部長からの御挨拶にもありましたが、大きなイベントが終了している。中学生のスポーツ活動に変化が見込まれる。そして、計画の見直し時期であるということで、変化の見込まれる期間の委員に就任しましたので、力を合わせて岩手のスポーツを前進さ

せられるように頑張りたいと思います。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
　ありがとうございました。続きまして、菊池委員お願いいたします。

（菊池委員）
　スポーツ推進委員の菊池幸子です。平藤会長もおっしゃいましたとおり、やはり岩手のスポーツを盛り上げていきたい。子ども達も少なくなっておりますので、スポーツ推進委員を含めてどのように引っ張っていくか考えていきたいと思いますし、会長の補助ということで、務まるか不安ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
　ありがとうございました。平藤会長は議長席にお移りいただきますようお願いいたします。
　なお、熊谷部長は所用がございますので、ここで退席いたします。

５　議題
⑴　議事
（佐藤生涯スポーツ担当課長）
　続きまして、議題に入りますが、条例第３条第２項の規定により、会長が議長となることとなっておりますので、以降の進行は平藤会長にお願いいたします。

（平藤会長）
　それでは、会議の次第によりまして進めてまいります。
　早速、５の⑴「議事」に入ります。「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況について、事務局から説明をお願いします。なお、⑵報告アの「いわて県民計画（2019～2028）」第１期アクションプランの進捗状況と連動しておりますので関連性も含めて御説明をお願いします。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
　スポーツ振興課の佐藤でございます。
　資料１、資料２により御説明いたします。資料１は「いわて県民計画」の進捗状況について、資料２は「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況についてです。
　説明の前に、「いわて県民計画」と「岩手県スポーツ推進計画」の関係につきまして、改めて御説明させていただきます。参考資料『「いわて県民計画（2019～2028）」と「岩手県スポーツ推進計画」の対応状況』を御覧願います。
　表の左側は、「いわて県民計画」についてです。スポーツに関する取組は、「Ⅰ　健康・余暇」、「Ⅲ　教育」、「Ⅳ　居住環境・コミュニティ」の３つの政策分野に体系づけられております。さらに「復興推進プラン」や「新しい時代を切り開くプロジェクト」にもスポーツの取組が位置づけられ、それぞれ重点的に取り組むこととしております。

右側の「岩手県スポーツ推進計画」については、「１　ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」、「２　共生社会型スポーツの推進」、「３　国際的に活躍する競技スポーツの推進」、「４　地域を活性化させるスポーツの推進」の四つの取組を柱に、体系づけて推進しております。

両計画の関係ですが、「岩手県スポーツ推進計画」は、「いわて県民計画」に示している目標や取組等を具体化する「個別計画」という位置づけにありますので、この表に示す通り、「いわて県民計画」の具体的な取組内容にそれぞれ対応していくことになります。

資料１の「いわて県民計画」の進捗状況と、資料２「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況については説明が重複しますので、今年度のスポーツ分野の取組の進捗につきましては、資料２「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況により、一括して御説明したいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、資料２を御覧ください。「岩手県スポーツ推進計画」につきまして、四つの施策の柱の順に、黄色のセルを中心に主な事業を御説明いたします。

まず柱の一つ目、「１　ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」ですが、様式中、県で実施する事業を記載してございますが、所管する事業が我々知事部局（文化スポーツ部）と、県教育委員会とそれぞれの事業で構成されています。従いまして、まず私のほうから文化スポーツ部所管の事業の説明させていただきまして、その後、教育委員会側から説明するというような順番にしたいと思います。

まず、「⑴スポーツ参画人口の拡大」につきまして、御説明いたします。

１の「生涯スポーツ推進事業」については、県民のスポーツ機会の充実を図るため、県のスポーツ振興事業団に委託をし、スポーツ教室や講習会、スポーツイベント等を実施しております。令和４年度については、昨年度に引き続き、各種スポーツ教室の開催や、企業等への健康づくりの指導者派遣など、年代に応じた運動機会の確保にも留意しながら取り組んでおります。

２の「生涯スポーツ推進事業」につきましては、総合型地域スポーツクラブの育成支援を通じて、身近にスポーツを楽しむ機会の充実を図ろうとするものです。令和４年度につきましては、昨年度に引き続き、これらの取組を継続し、総合型地域スポーツクラブの体制強化を図って参ります。

続いて資料の２ページをお開き願います。

５の「スポーツ医・科学サポート事業」におきまして、コロナ禍でもできる健康づくりの取組として、スポーツ医・科学専門医による実技指導のほか、「レッツ!ぺっこトレ!」、「ぺっこ学ぶべ!!」により、運動プログラムやスポーツ医・科学講座の動画配信を行いました。

続きまして、３ページ以降を飛ばしまして、文化スポーツ部が所管する事業は８ページの「⑶成人のスポーツ機会の充実」、９ページの「⑷スポーツに関わる多様な人材の確保・育成」、10ページから11ページの「スポーツを楽しむ環境の整備」となります。

この中で、９ページの「４　いわてスポーツプラットフォーム推進事業」につきましては、⑵の報告の中で説明いたしますので、この場での説明は省略させていただきます。

続きまして、10ページから11ページの「⑸　スポーツを楽しむ環境の整備」ですが、11ページの３「新野球場整備事業」について御説明いたします。これにつきましては、報道等でご案内のとおり、盛岡市と共同で、新野球場の整備を進めているもので、整備の概要は表形式で記載のとおりでございます。令和５年４月の供用開始に向け、現在、建設工事を進めております。これまでの新聞報道でもありましたとおり、来年度はプロ野球のセリーグ、パリーグともに公式戦が開催される予定となっています。

その下、４の「スポーツ施設ＤＸ利用促進事業」については、今年度の新規事業スマートフォンで予約

等を行うことができるシステムを、県営スポーツ施設に導入し、利便性を向上しようとするものでございます。今年度は、システム構築と試験運用を行うこととしており、将来的には県内市町村との連携についても検討していく予定です。

その下、５の「スポーツ大会映像配信事業」につきましては、コロナで、新しい生活様式となっておりますが、これに対応したスポーツ活動を推進するため、希望する競技団体に撮影機材を貸し出しまして、スポーツ大会のライブ配信を支援するものです。今年度は、４競技団体に貸し付けたところです。

以上で、柱の一つ目、「ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」の説明を終わります。

（菊池保健体育課総括課長）

岩手県教育委員会事務局保健体育課の菊池でございます。

続けて御説明申し上げます。資料№．１の３ページを御覧ください。「⑵　子どものスポーツ機会の充実」について御説明申し上げます。

１の「６０プラスプロジェクト推進事業」については、昨年度までは「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」として、子どもの体力向上を目指して、1日60分以上、運動やスポーツに親しむため、学校等が家庭・地域と連携して運動習慣形成に向けた環境づくりに取り組んでいたものを、今年度発展・継承させて、運動習慣、食習慣、及び生活習慣の改善等の取組を一体的に推進する事業となります。

具体的には、小中学校等への新チャレンジカードを配布し、運動時間や食事での噛む回数、就寝時間のチェックを行うことや、学校内における運動習慣、食習慣、生活習慣の形成に係る担当者が連携した取組などを行っているところです。

５ページをご覧ください。１の「岩手県における部活動の在り方に関する方針」の改訂についてですが、県の方針に沿って、全ての市町村において部活動の方針が策定されている状況です。取り組み内容といたしまして、部活動は、生徒の自主的・自発的な参加により行われるものであり、参加の義務付け、活動の強制をしないとの周知、体罰根絶に向けた部活動研修会の実施等でございます。

また、国における部活動のガイドラインが、11月16日付け地域クラブ活動を加えた形のガイドライン案が示され、現在、意見募集が開始されているところであります。県としましても、国のガイドラインに沿った形で県の方針改訂を行う予定であり、国の動向を注視しているところです。

次の２にあります、中学生スポーツ・文化活動に係る研究については、令和３年３月に本県の外部有識者会議において策定された提言を県内に周知するとともに、令和５年度から進められる公立中学校の段階的な地域移行において、この県の提言の要素を盛り込みながら、いわての中学生がそれぞれの興味・関心に応じた多様な活動ができるよう、関係部局と連携して市町村等が取り組む部活動の地域移行を支援していきたいと考えています。

６ページをご覧ください。

８の部活動指導員配置事業についてですが、部活動指導員の配置により、効率的・効果的な部活動を推進するとともに、教員の働き方改革の一環として、地域の指導者が、部活動の顧問として技術的な指導を行うことで、教員の負担軽減に繋げるものです。平成30年の事業開始から、順調に配置数を伸ばしているところです。来年度から進められる部活動の段階的な地域移行においては、指導者として想定されていることから、地域での外部人材の掘り起こしを進めていきます。

10の地域部活動推進実践研究事業についてですが、令和５年度からの公立中学校における部活動の段

階的な地域移行に向けて、全国各地で行われているモデル事業となります。

本県においては、令和３年度から継続して地域移行に向けた実践研究を行っているところであり、今年度はこれまでの岩手町及び葛巻町に加え、大船渡市の１市２町において取り組んでいるところであります。なお、令和３年度の全国各地で行われたモデル事業の事例集については今月１日に公表され、来年度からの取組の参考になるものと考えています。

保健体育課の説明は以上となります。

（平藤会長）

ただ今の「１　ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」の説明に対して、御質問はございませんか。

それでは、事務局続けて説明をお願いします。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

それでは次に、二つ目の柱であります、「共生社会型スポーツの推進」についてご説明申し上げます。資料№.１の12ページをご覧願います。

はじめに、「(1)障がい者スポーツの推進」についてご説明申し上げます。

１の「障がい者スポーツ推進事業」については、昨年度に引き続き、県障がい者スポーツ協会への業務委託により、スポーツ教室、指導員養成、スポーツ大会開催、選手育成強化等行っておりますが、今年度についても、新型コロナウイルス感染症への対策を講じながら、障がい者スポーツ大会を開催することができ、その他の取組に関しても同様に対策を講じながら進めて参りました。

２の「インクルーシブ推進事業」は昨年度の「スポーツを通じた共生社会づくり推進事業」から組み替えた事業でございまして、地域での障がい者スポーツ推進体制の構築や、指導員養成、地域での体験教室、交流大会の開催等を支援しております。

次に、17ページをお開きください。「(3)スポーツにおける女性の活躍推進」についてです。

３の「スポーツ医・科学サポート事業」につきまして、女性アスリートの保護者や、養護教諭等を対象に、女性アスリートサポートセミナーやスポーツ団体等への講師派遣を行っており、女性選手個々のセルフマネジメント能力向上に向けて取組を進めております。

以上で、柱の二つ目、「共生社会型スポーツの推進」についての説明を終わります。

（平藤会長）

ただ今の「２　共生社会型スポーツの推進」の説明に対して、御質問はございませんか。

（今野委員）

昨年度はオリ・パラ大会がございました、特にパラ大会に関しては各国から多くの障がい者が集いました。連日の競技から障がいがあることを目の当たりにしたことと思います。重度の人でも活躍できる競技がありました。車いすラグビーには目を見張るものがあり、軽度の人から重度の人まで入り混じって戦っていました。それぞれ点数がつけられていて、軽度の人だけではチーム編成ができないようです。重度の人の役割は、相手チームの進路を阻むというもので、握力が弱く直接的なポイントゲッターにはな

れませんが、重要なポジションです。迫力満点で車いす同士がぶつかり合い、ハラハラドキドキでした。全員車いすですが、軽度の人と重度の人ではかなりの力の差があります。このルールを考えた方は素晴らしいと思います。放っておけば、軽度の人の車いすラグビーになっていたことでしょう。重度の人はお呼びでないということになりましたよね。

また、だれでも気軽に参加できる卓球バレーはとても良いものです。全員が座ったままでプレーするので、健常者が有利というわけではなく、老若男女障害がある人もない人も平等です。

県障がい者スポーツ協会で県内各地を回って普及指導してくれていますので、随分浸透したと思います。体力の弱い人も参加できますし、籠っているよりはと出てくる人もいます。生涯スポーツとしても最適です。ただ、ボッチャは本来重度障害者のために考えられたものなのですが、高齢者スポーツとしても人気が出てきて、大会を行うと、障がい者は抑え気味になって、車いす使用者や半身まひなど重度の方は出てこなくなりました。生涯スポーツとして楽しむのはいいと思いますが、障がいのある人もない人も一緒に楽しむことができる卓球バレーのような工夫が必要です。車いす使用者や視覚障がい者はだんだんと面白味がなくなっているのが現状です。

全国の障がい者スポーツ大会では、脊椎損傷のような重度の人が対象です。このような重度の人がもっと出てきやすくするためには、やはりルールを考えてほしいと思います。共生型ということを考えれば、もっとなじめるような、そういう社会を考えて提案はしているのですが、実現には至っていません。以上です。

（平藤会長）

特にどの項目に絞ってとかではなく、御意見だと思われます。

それでは、事務局続けて説明をお願いします。

（熊谷競技スポーツ担当課長）

スポーツ振興課の熊谷でございます。次に、三つ目の柱、「国際的に活躍する競技スポーツの推進」について御説明申し上げます。資料№．１の15ページを御覧ください。『３　国際的に活躍する競技スポーツの推進』について説明します。『国際的に活躍する競技スポーツの推進」ですが、「アスリートの発掘・育成」、「競技力向上を支える人材の育成」、「競技力向上を支える環境の整備」の３点を軸として、取り組んでおります。

昨年開催されました東京・北京オリンピックには、本県ゆかりの選手が７名ずつの出場。北京オリンピックに、スーパーキッズ事業修了生が２名出場を果たし、特にも、小林陵侑選手が金・銀メダル獲得、全国タレント発掘事業第１号となるメダリストとなりました。

また、キッズ修了生ではありませんが、永井秀昭選手も銅メダル獲得。更に、メジャーリーグでの大谷翔平選手の二刀流の活躍などもあり、各報道等で『岩手のスポーツ』が大きく注目されております。

このような中、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度も若干、大会中止、それに伴う事業の延期・縮小が生じておりますが、３年ぶり及び４年ぶりに開催された「いちご一会とちぎ国体・大会」での本券選手団の活躍等もあり、コロナ禍でも県体育協会・県障がい者スポーツ協会・各競技団体の協力の下、現在まで事業推進できているものと捉えております。

以下、主な事業を取り上げますと、⑴アスリートの発掘・育成として、オリンピック選手等育成・強化

事業では、15ページ１の「スーパーキッズ発掘・育成事業」では、応募者の少ない地区で、小学４・６年生を対象とした体験会を引き続き開催し、更なる応募促進に努めました。

また、各キッズには、今年度よりタブレットを貸与し、オンラインによる自宅でのプログラムの受講機会を設け、遠隔地からの移動負担を軽減しながら、参加機会の向上を進めております。

16ページ５の「スキー全国大会少年種別強化事業」では、来年２月に開催される、「いわて八幡平白銀国体」での少年種別の活躍を支えるよう事業を進めております。

パラアスリートの支援においては、継続して発掘・育成に取り組み、指定選手を中心に、国際大会・全国大会で成果が表れてきているところであり、継続して育成・強化に取り組んでいきます。

⑵競技力向上を支える人材の育成として、18・19ページのとおり、各事業におきまして、指導者の育成や資格取得のため継続して支援を進めております。

競技力向上を支える環境の整備として、「スポーツ医・科学サポート事業」では、20ページ２にありますとおり、ＩＡＴ３期生の養成を昨年度終え、今年度は１にあります「トレーナースタッフ派遣事業」において、現役のＡＴ・ＩＡＴの指導を受けながら現場活動を展開しております。特にも女性12名の現場での活躍が期待されているところです。

また、21ページ２にありますとおり、今年度「スポーツアナリティクスサポート事業」を新たに立ち上げ、12競技団体に19ライセンスを貸与。動作分析ソフトによる様々な研修を積む中で、映像分析・データ活用による効率的な指導を現場に導入していくこととしております。

説明以外の事業については、資料をご覧いただきたいと考えます。

（平藤会長）

ただ今の「３　国際的に活躍する競技スポーツの推進」の説明に対して、御質問はございませんか。

それでは、事務局続けて説明をお願いします。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

それでは最後に、四つ目の柱、「地域を活性化させるスポーツの推進」についてご説明申し上げます。資料№.１の23ページをご覧ください。四つ目の政策の柱「地域を活性化させるスポーツの推進」です。

資料の23ページをお開きください。

本県では、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中ではありましたが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等を通じて、復興支援への感謝と復興に力強く取り組む姿を国内外に発信するとともに、オリ・パラを契機とした市町村の人的・経済的交流を図って参りました。

２の「スポーツ合宿等の誘致支援」について、今年度はコロナの影響によりリモートでの開催予定ではありますが、県内市町村に呼びかけ、首都圏及び仙台圏のスポーツチーム、旅行代理店に対して合宿実施に向けた個別相談を行う予定としております。いました。３の「スポーツアクティビティの展開」について、今年度は、アクティビティ事業者間の連携による広域的な誘客を促進するため、複数アクティビティのパッケージプランの創出と周知に取り組んでおります。

４の「トップ・プロスポーツチームと連携・協働した地域活性化」について、冠ゲームの開催やスポーツ教室等の取組を引き続き実施してまいります。今年度は、特に、コロナ対策交付金を活用し、コロナにより子どもたちがスポーツに接する機会が少なったため、各試合への観戦招待を実施したところです。

資料の24ページをお開きください。

下の欄、２の「ラグビー県いわて定着に向けた取組」については、ラグビーワールドカップ2019岩手・釜石開催を契機に、「ラグビー県いわて」を本県のブランドとして定着させようとするものです。昨年度は、東京2020文化プログラムのフェスティバルや、11月のラグビーメモリアルイベントにおいて、「ラグビー県いわて」のPRブース展示を行いました。今年度は、釜石シーウェイブスとの協働により、リーグワン会場での本県のＰＲ等を行うこととしております。

資料の25ページをお開き願います。

１の「スポーツクライミング推進事業」及び２の「日本スポーツマスターズ2022開催準備事業」につきましては、報道等でご存じの方もいらっしゃる方もいると思いますが、それぞれ本年９月、10月に本県で開催されたところです。また、３の「特別国民体育大会冬季大会スキー競技会開催準備事業」につきましては、来年、令和５年２月に本県で開催予定のスポーツイベントでございます。これらの事業の詳細につきましては、後ほど、報告のところで詳細を説明いたしますので、この場での説明は省略させていただきます。今後も、関係機関と連携しながら国際大会や全国大会の誘致を図ってまいります。

以上で、柱の四つ目、「地域を活性化させるスポーツの推進」についての説明を終わります。

（平藤会長）

ただ今の「４　地域を活性化させるスポーツの推進」の説明に対して、御質問はございませんか。

私から一ついいでしょうか。

イベントが３つあったのですが、マスターズ、クライミング、冬季国体に関して、来年の見込み等ありますでしょうか。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

今年度25ページに書いておりますとおり、マスターズ、クライミング、冬季国体と既に開催したものと、これから開催するものがございます。来年度につきましては、マスターズ、冬季国体につきましては、各県の持ち周り開催になっている関係で、他県での開催となります。一方でスポーツクライミングにつきましては、先月にワールドカップが開催されましたが、本県において、ジャパンカップといった大会を開催している実績がございます。今年度８月に、今後の大規模大会の誘致等を目的として、県と盛岡市と日本山岳・スポーツクライミング協会の三者でこの連携協定を締結させていただいたところでございますので、連携協定を機に、来年度以降の大会誘致も進めて参りたいと考えています。

（内城委員）

県スポーツ推進計画の記載26ページのトップ・プロスポーツチームの事業ですが、試合を実際に見に行き、沢山の観客を見て、トップ・プロスポーツに対する可能性を感じています。お伺いしたいのは、スポーツ教室、健康づくり教室、観戦招待と３チーム計でそれぞれ記載があったのですが、内訳等を教えていただきたいと思います。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

令和３年度に記載がございました、観戦招待13回1,923人ですが、昨年度は、コロナ交付金を活用して

実施した事業です。これに関しては、事業が終了したことで今年度は記載が無いということになります。
スポーツ教室、健康づくり教室につきましては、75回、22回とそれぞれございますが、内訳の詳細は手元に資料がございませんので、後ほど御提供させていただきたいと思います。

（小山田委員）
２のスポーツ合宿等の誘致支援ですが、どのくらいの実績がございますか。
また、課題があるとすればどのような課題があるか教えてください。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
実績については、各年度分ありますので、追って御提供いたします。課題については、市町村側のニーズと県の働きかけに関して、県といたしましては、各市町村協力のもと、さまざまな競技で合宿を受入れたいと考えているのですが、それぞれの市町村の方針もあり、県の考えと必ずしも一致しないところがあるということが課題として認識しているところです。

（平藤会長）
では、全体に関して質問があれば。あるいは御意見、要望があれば。

（内城委員）
先ほどまでの質問にもつながるとは思うのですが、海外のサッカー場では、盛り上がり死者がでるという事件がございましたので、観戦対策が必要かなとは思っておりました。できるだけ、トップ・プロスポーツが県の財産なるように、支援が進むことを望んでいます。
健康づくりやスポーツ教室も魅力的な取り組みであるとは思うのですが、選手の競技力の向上であるとか、トップ・プロスポーツのもつ経済効果の最大化をはかるために、アドバイザーを県に一人置くのも案だと思います。経済と地域の盛り上がりを図るコンテンツの一つだと思っております。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
トップ・プロスポーツ事業に関しては、スポーツによる地域活性化を目的の１つとしておりまして、人的・経済的推進という目標があり、どうしても人を呼び込むことに着目して事業を組み立ててしまいがちなのですが、先ほどのお話にもありました通り、安全確保は大前提だと思われますので、連携を図りながら進めていきたいと思っております。

（綱嶋委員）
トップ・プロスポーツに関して、グルージャ・ブルズ・シーウェイブスの３競技について、「プロ」ということに着目してこの競技を選んだのでしょうか。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
文化スポーツ部が岩手国体の終わった翌年の平成29年度に立ち上げたもので、部ができたときに、スポーツを活性化させていこうということで、他県を参考とし、県内にあるチームと連携して取り組んでい

こうということで選定したものです。

（綱嶋委員）
競技が絞られてしまうということと、プロだけでなく、大きい影響があたえられるものが対象としてもっと拡げてもいいと思います。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）
スタートしてから６年ほど経過している事業でございますので、綱嶋委員のご意見を参考にして検討していきたいと思います。

（平藤会長）
それでは、「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況ついては以上といたします。

⑵　報告
（平藤会長）
次に、⑵　報告に入ります。アの「いわて県民計画（2019～2028）」第１期アクションプランの進捗状況につきましては、「岩手県スポーツ推進計画」の取組状況での内容に連動しますのでここでは説明を割愛させていただきます。イの「いわて県民計画（2019～2028）」第２期アクションプランの策定について事務局から説明をお願いします。

（佐々木主査）
文化スポーツ企画室の佐々木でございます。それでは報告事項イの「いわて県民計画（2019～2028）」第２期アクションプランの策定について御説明いたします。資料３－１をご覧ください。
スライド２をご覧いただきたいのですが、県でアクションプランと呼んでいるもののなかでも本日御説明するものは政策推進プランと呼ばれるものです。
スライド４をご覧ください。岩手県民計画は長期ビジョンとアクションプランで構成されています。県では2018年度長期ビジョンとアクションプランを作成し、19年度から22年度を１期として行ってきました。来年度からの４年間が第２期ということで、プランの策定を進めているところです。第２期の策定にあたりましては、第１期の評価結果ですとか、コロナ感染症の影響等、社会経済状況を踏まえて策定すること。様々な主体から広く意見を伺うこと。そうしたことを意識して策定しております。
スライド９をご覧ください。こちらには第１期の成果と課題について記載しております。10の政策分野ごとに記載しております。スポーツ分野の大きな成果といたしましては、スライド12の教育に記載があります。冒頭で熊谷部長から申しあげたとおり、大谷選手ですとか、小林陵侑選手ですとか、本県出身の選手の世界的な活躍により、スポーツに関する県民の関心が高まったということが挙げられるかと思われます。
スライド15をご覧ください。ここから第２期についての具体的な説明になります。本県の現状から説明させていただきたいと思います。本県の人口は本年11月１日現在で約118万人でございます。前年同期の119万６千人より、約１万５千人減少している状況です。そのうち、出生数から死亡者数を引いた自然減

が約１万５千人、また、転入者から転出者を差し引いた社会減が、約５千人。本県を始め、日本全体で人口減少が進んでいるところでございます。コロナ禍において、婚姻件数、出生者が減少しており、長期化することが懸念されています。

また、首都圏在住者の移住の関心が高まっているといわれているものの、東京一極集中に歯止めがかかっていない状況となっております。人口減少が、希望する就業や、就職のしにくさ、結婚・妊娠・子育てのしにくさといった生きにくさにつながっているのであれば、そういったものを省いていくことが必要となります。そういった現状を踏まえまして、第２期プランでは、人口減少対策に最優先で取り組んでいくこととしております。

第２期の重点事項は４つございます。スライド16をご覧ください。１つ目としては、結婚子育て支援・移住定住支援を中心とした、人口自然減。社会減対策。２つ目として、グリーントランスフォーメーションの推進。３つ目として、デジタルトランスフォーメーションの推進、４つ目として、安心安全な地域づくり。４つの重点事項をプランの中に明記することとしおります。

スライド23～25までですが、４つの重点事項の主な取り組みを記載しております。４つの重点事項に関して、スポーツ分野がどのような位置づけとなっているか、どのような推進方策をたてているか、素案を通して説明していきます。

文化スポーツ部が大きく貢献できるのは、人口社会減対策とデジタルトランスフォーメーション対策になります。

最初に社会減対策です。147ページ、政策項目26です。こちらの項目は、スポーツを活かした、地域活性化を図るための推進方策を記載しております。スポーツの力は県民としての誇りや、一体感の醸成、こどもたちに夢や希望を与えるなど、県民の幸福度向上に大きく貢献しております。

スポーツの取り組みの推進は、岩手のイメージや魅力度を上げることにつながり、そのことが人口社会減対策につながります。スポーツを通じた魅力向上のためにどのようなことを進めていくかが148ページに記載しております。

続いてデジタルトランスフォーメーションです。117ページ政策項目19、人材育成に関してとなります。スポーツ分野においては、これまでのデジタル技術を活用して、スーパーキッズ事業や、映像データを活用した、スポーツアナリティクス事業に取り組んでまいりました。第２期におかれましては、それらをさらに充実させて、スポーツ分野におけるデジタルトランスフォーメーションの活用を進めていきたいと考えております。

４つの重点事項に関しても併せてご説明いたします。

項目４です。県民の健康増進・余暇にかかる方策に関して、社会減対策やDXと同じくらい重要と考えます。35ページに記載がありますとおり、ライフステージに応じたスポーツを楽しむ機会の充実。障がい者スポーツ等への参加機会の充実を図ることで、県民が心身共に健康的に暮らせるよう。余暇時間が充実していることを実感できるように取り組んでいきたいと考えております。

特に第２期においては、部活動の地域移行に関する受け入れ態勢の整備、県営スポーツ施設の在り方の検討、東京オリンピック・パラリンピックにより関心が高まっている、インクルーシブスポーツの機会創出に関して盛り込んでおります。

施策を推進するにあたり、指標を定めております。以上第２期アクションプランの概要、スポーツ分野の推進方策を説明させていただきました。

ご意見がある場合、本日お配りしております、右上に別添様式と記載のあるものに記載の上、12月14日を目途にメールかFAXをお送りください。スポーツ分野でも、素案部分でもかまいません。

（平藤会長）

資料No. ３－２の120ページに県が取り組む具体的な推進方策の目標が記載されていますが、これまでは国民体育大会天皇杯順位というのが書かれていたのが、第２期では全国大会入賞競技団体数、さらに累計とありますが、この趣旨は何だったのでしょうか。

（熊谷競技スポーツ担当課長）

指標を考える段階におきまして、希望郷いわて国体が終わって何年か経つというところが１つありましたし、今後もっと国際的に活躍できる人材の育成を進めるという観点がありましたので、指標の中身を見直していくことといたしました。

国民体育大会の入賞等の順位については、本県の競技力を支えるベースとなっている部分としてこれまで捉えてきて、こちらも当然大切にしていかなければならないところですが、全体的に国際的に活躍するアスリートを育てるという中では、もう少し国際大会の入賞数や、日本代表の選出数などを見ていかなければならないという経緯の中で見直す方向で進めているものです。

（平藤会長）

分かりました。ありがとうございました。委員の皆さまから何かございますか。

（内城委員）

今の御説明で、少子化が進んでいて、自然減が進んで、住民が１年間で１万５千人近くも減っているということで驚いたところでした。それに合わせてスポーツがどのような役割を果たせるのか考える必要があると考えます。大阪体育大学学長でありスポーツマネジメントを専門とする原田宗彦先生の著書からの参考となりますが、昭和のスポーツは国がスポーツと近づいた時期だったと思います。平成のスポーツは地域に移行したと言われています。これから令和のスポーツをどのように進めていくのかを考えたときに、個人がスポーツに密着するということを働きかける必要があるとわたしは考えています。

私がある市民セミナーで「年間に世帯でどれくらいスポーツにお金をかけていますか」と質問をしたときに、10万円以下というところが多かったと思います。するだけではなくて、見るとか支えるとかもありますが、活動にそれくらいしかお金をかけていないそうです。二極化しているということかと思います。私が勤めている大学ではどれくらいお金をかけていますかというと、だいたい50万円から100万円ということでした。ということで考えると、個人がスポーツとつながるということは、個人がスポーツにお金をかけていくということが必要になってくると思います。そう考えると、スポーツが教育と文化だけでは支えられない状況になってきていて、経済活動との一体化というのが必要ではないかと思っています。経済活動で、個人もしくは世帯が、スポーツに見る、支える、するということにお金をかけていくと、おそらく地方の中にも、生活の中にわくわくしたり、楽しめたりするコンテンツが増えていくことにつながっていくと思います。そういう生き甲斐が、暮らしやすい、生きやすい世の中になっていって、楽しめる場づくりというものに有効になってくるのだと思います。

例えて言いますと、何年か前に八戸駅前に「フラット八戸」というスケート場ができました。そこは非常に高付加価値を付けたスタジアムアリーナ構想の中で建てたものだというふうに思います。４画面のハイビジョンが設置されていて、ご覧になっている方も多いと思いますが、そこで羽生結弦選手がショーをするということで来ることになったわけですが、そこに隣接するホテルが１室だいたい５千円くらいで泊まれるシングルルームなのですが、10万円出しても泊まれないというような実態もありました。じゃあ、岩手県でそれを実現しようとしたときに何がどのように実現可能かと考えると、それを受け入れられる受け皿がソフトもハードも実際にはないのではないかなと思っています。

これから令和のスポーツというものをしっかりと考えていかなくてはと思いますが、経済活動がスポーツを支えるところ、特にスポーツは運動部活動が地域に移行するということも踏まえて、そういった雰囲気の醸成も図っていった方がいいのではないかと思います。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

ただいまの内城委員からのお話ですが、スポーツによる経済効果を含めたお話かなと思っております。県としても施策を進める上で貴重なご意見として参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

（平藤会長）

他に何かございますか。

（菅委員）

資料No. ３－１の18ページに今後の方向性ということで、「Ⅰ　健康・余暇」の１番下のところに「文化芸術の鑑賞や発表の場の充実、スポーツに取り組むことができる環境整備」ということで、具体的には書いていませんが、私自身スポーツ医・科学という立場もありますので、そこの環境整備がどのようになっているのかなというのが確認の１つ目です。いかがでしょうか。

（熊谷競技スポーツ担当課長）

医・科学センターの整備につきましては、いわて国体に備えて整備する方針で進めてきたわけですが、東日本大震災津波等の影響を受けまして凍結という形で進んでおり、今の段階ではそれをまた再整備しようという形では進んでいない状況となっております。その中で、中味につきまして、スポーツ医・科学分野の推進を図るということで、様々な事業を進めておりまして、現在は主に施設の中で行うのではなくて、派遣型で事業を進めて、いわゆる出前出張で動くことによって、様々な事業の推進を図っています。現在のところ、その方が利用者にとっては利便がいいという点もあり、推進している状況となります。施設については、さきほどもありましたとおり、今後の整備計画の中で確認していくこととなっておりますので、その中で確認を進めていきたいと考えております。

（菅委員）

大変な状況にあるとは思いますが、岩手にもそういった形があるといいのかなと思います。２つめの質問ですが、その上に認知症対策の推進、充実・強化とありますが、健康寿命というのは認知症対策も含め

たものとなると思いますが、そういったものが健康寿命に大きく関わっていくということで、スポーツに関連してどのようなものがあるかお伺いします。

（佐々木主査）

認知症の施策につきましては保健福祉部の方で進めているものでございます。今すぐにスポーツと結び付けた何かというものはお答えしかねますが、今いただいた御意見も踏まえて、健康・余暇分野の推進も考えていければと思います。

（平藤会長）

他にありますか。よろしいですか。

この別添様式により、アクションプラン素案に対する意見を寄せてくれということでよろしいですね。結構中身があるので、前のものと比べないと分からないところもあるかと思うので時間がかかるかと思います。なお、県のホームページには、政策企画部の方に直接とも書いてありますが、文化スポーツ部に出した方がよろしいですか。

（佐々木主査）

こちらに出していただいても構いませんし、県の政策企画部の方でパブリック・コメントという形で御意見を募集しておりますので、そちらに直接送っていただいても構いません。

（平藤会長）

積極的に意見を出していただいて反映されるようにしていただきたいと思います。

それでは、イの「いわて県民計画（2019～2028）」第２期アクションプランの策定については以上といたします。

次に、報告のウからクまで事務局より一括して説明をお願いします。

（松崎冬季国体・マスターズ推進課長）

本年度は、本県で３つの大型スポーツイベントが開催される、「いわてゴールデンスポーツイヤーズ」と呼べる年度であり、安全で確実な大会運営のもと、来県する選手等関係者に、本県の魅力、復興支援への御礼を発信いたしました。

【資料№.４】をご覧願います。まず、報告事項のウの「日本スポーツマスターズ2022岩手大会」の開催実績について説明します。

シニア世代を対象をとした、わが国唯一の総合スポーツ大会である日本スポーツマスターズ大会を大会名誉総裁である高円宮妃殿下のご臨席を賜り、３年ぶりとなる大会を本県で開催いたしました。

左側２の大会概要記載のとおり、9/23～26を中心会期として、９市４町、開会式会場を含む25会場において、記載の13競技を、全国から6500名余が岩手に集い、熱戦を繰り広げました。

競技別の参加者数は右側記載のとおりとなります。

下段に記載のとおり、172名のボランティアと協働し、各会場では「ひっつみ」や「つみれ汁」等の郷土食がふるまわれ、選手との交流がはかられるなど、まさに県民に支えられた大会となりました。

また、会期中は陸前高田市の津波伝承館等の震災遺構を大勢の選手の皆さんが訪れていただいたところです。

日頃の鍛錬と豊かな経験に裏打ちされた素晴らしいプレーにスポーツの大きな可能性を感じた大会となりました。

続きまして、報告事項エの「IFSCクライミングワールドカップＢ＆Ｌコンバインドいわて盛岡2022について」説明します。【資料No. ５】を御覧下さい。

１の⑶以降に記載のとおり、10/20～22にかけて、県営運動公園スポーツクライミング競技場を会場に、世界初となる、パリ五輪と同じ方式となるボルダリングとリードのコンバインドにより、2022年ワールドカップシリーズ最終戦を本県で開催しました。

開催実績でございますが、は21か国の国と地域から67人の選手が参加し、３日間の合計で2000人を超える観客の声援のもと熱戦を繰り広げました。

また、マスターズ同様こちらも130名のボランティアに支えられた大会となったところです。右側に移りまして、⑸に記載のとおり、注目度の高い大会となったことから、試合の様子は全世界で放送され、岩手そして盛岡の認知度向上につながったものと考えています。

⑹に記載のとおり、大会では岩手県産リンゴが選手に提供される等さまざまなシーンで本県のＰＲが出来ました。

大会終了後、イタリアのトリノに本部のある国際スポーツクライミング連盟のマルコ・スコラリス会長から「パーフェクト」と、また、その周りのIFSC職員から「モア・ザン・パーフェクト」との評価を頂戴しました。まさに世界一流のテクニックとパワーを持つ選手と観客が一体となった素晴らしい空間でございました。

本県では、本年８月に、県内におけるスポーツクライミングの普及・振興、クライミングの拠点化の更なる推進に向け、日本山岳・スポーツクライミング協会と連携協定を締結したところであり、先週土曜日にはその成果の一つとして東京2020オリンピック出場選手である原田海選手等をゲストとし、県内の子どもたち60人を対象とした「クライミング体験キャンプ」を開催し、県内の子どもたちにクライミングの魅力を伝えていただきました。引き続き、今回のワールドカップをレガシーとし、スポーツクライミングの拠点化に取り組んでいきます。

続きまして、報告事項カの「いわて八幡平白銀国体について」説明します。【資料No. ７】を御覧下さい。

こちらは来年２月に開催予定の特別国民体育大会冬季大会スキー競技会、愛称名「いわて八幡平白銀国体」の資料となります。

平成28年の希望郷いわて国体から７年ぶりの開催となる本大会が。右側記載のとおり、2/17から20にかけて、ジャイアントスラローム、クロスカントリー、スペシャルジャンプ、そしてコンバインドの４競技が、それぞれ、安比高原スキー場、田山クロスカントリーコース、矢神飛躍台を会場に、全国から約1800人の選手、監督が本県に集い開催いたします。

ＲＷＣ2019、東京2020オリ・パラ聖火リレー、マスターズ、クライミングW杯といった大型スポーツイベントで蓄積した大会運営、ボランティアとの協働といったレガシーにより、東日本大震災津波から５年後に開催した希望郷いわて国体から７年ぶりの開催というストーリーを踏まえ、変わることのないおもてなし、そして復興支援への感謝の気持ちを伝えることができるようしっかりと準備を進めてまいります。

（熊谷競技スポーツ担当課長）

続きまして、報告事項オの「第77回国民体育大会及び第22回全国障害者スポーツ大会の岩手県選手団の結果について」御報告申し上げます。【資料No. ６】を御覧下さい。

第77回国民体育大会の選手団の派遣状況です。こちらは、３年ぶりの開催ということで、10月18日～21日まで達増知事を団長とし、出場してまいりました。参加者数は492名で、岩手国体以前の500名を超えていた選手団から若干下回ったという、厳しい状況もありました。

その中で847.5点、天皇杯順位総合第30位を結果として残していただきました。平成31年、第74回大会の31位から順位を一つ上げ、点数は若干落としたというところになります。こちら東北１位を目標としながら、⑶にあります通り東北の２位となりました。宮城県に39点及ばずというところです。

先ほどの参加数等も含めまして、夏ごろの高校生のインターハイその他の大会までは、コロナ禍の影響もあり、なかなか強化が進まず、目標順位に対してどのようになっていくのかという危惧もありましたが、様々な競技団体様の御協力のもと、強化を最後まで進めていただき、特にも成年女子、少年女子の団体種目で、上位入賞をしていただく中で、この結果が出て参りました。

その中で、少年男子の強化が若干及ばず、点数を落としているという危惧もありますが、どうにか東北２位で、終えさせていただいたということになります。右側に入賞一覧がございます。

入賞数は62で、茨城大会の76から減少したところですが、ボート競技成年男子、スーパーキッズ出身の菅原陸翔さん、そして、ボクシングミドル級の鳥谷部魁さんが優勝を飾りました。

入賞競技数は国体種目40競技中、20競技ということで、約半数の競技が入賞を果たしています。茨城大会は23競技団体ですので、若干減ってはおりますが、多くの部分で健闘していただいたと言うことになります。

国体の強化は県の強化の基となっている部分も踏まえ、再度、進めて参りたいと考えております。

続きまして、次のページ、資料６－２をご覧いただきたいと思います。

第22回全国障がい者スポーツ大会の結果となります。

こちらは４年ぶりの開催ということとなり、10月29日から31日まで栃木県で行われました。

入賞の推移をご覧いただければ、わかるかと思いますが、入賞数30で、岩手大会以来の好成績を残していただいたということになります。

2－⑴の競技成績にありますが、１位の小野寺萌恵さん、昨年バレーアジアパラに出場して、優勝しておりますが、今回も、入賞を果たしております。

その他様々な好成績を残していただいたわけですが、これらの中で特別支援学校の生徒も増えている状況もあり、しっかり支援いただいていると確認できます。また、県で進めております、選手をつなぐコーディネーターの派遣の効果もあると考えております。

団体種目も健闘しており、障がい者スポーツの強化、育成を今後もすすめていきたいと考えております。

（菊池保健体育課総括課長）

続きまして、報告事項キの「中学校における部活動の方向性について」御報告申し上げます。

【資料No. ８】を御覧下さい。

スポーツ庁の有識者会議がまとめた提言「公立中学校等における休日の運動部活動の地域移行」について、全国各地で学校と地域が協働・融合したスポーツ環境の整備へ向けた検討が進められています。
運動部活動は、これまで生徒のスポーツに親しむ機会を確保し、生徒の自主的・主体的な参加による活動を通じて、「楽しさ」や「喜び」を味わい、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質・能力の育成、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものとして、大きな役割を担ってきました。

近年、中学校生徒数の減少が加速するなど、深刻な少子化が進行して学校単位での部活動運営が困難な状況にあることや、学校部活動だけでは中学生のニーズに応えることが困難な状況にあります。
また、競技経験のない教師が指導せざるを得ないことや、休日を含めた部活動の指導が求められたりするなど、教員にとって大きな負担となっている実態もみられており、国においても部活動改革の必要性が示されているところであります。

本県では、令和３年３月に、岩手県「中学生スポーツ・文化活動に係る研究」有識者会議による提言が策定され、文部科学省の「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」の動きを見据えながら、本県中学生の「望ましい活動・環境の姿」の実現に向け、中学生の活動を支える各主体に求められる役割・取組が示されました。

更に、スポーツ庁及び文化庁の外部有識者会議から、公立中学校における部活動の段階的な地域移行について提言が示され、まずは、休日の部活動から段階的に地域移行することとし、目標時期は、令和５年度の開始から、３年後の令和７年度末を目途、平日の部活動の地域移行は、進捗状況を検証し、できるところから、地域におけるスポーツ機会・文化芸術に親しむ機会の確保、生徒の多様なニーズにあった活動機会の充実、地域のスポーツ団体・文化芸術団体等と学校との連携・協働の推進、という改革の方向性が示されました。

地域移行の具体的な進め方等については、現時点では国から示されていないところではありますが、本県としては、地域の実情に応じて、実施可能な市町村、実施可能な競技から進めて参りたいと考えておりますが、進めていくに当たりましては、県の提言に示されております「いわての中学生がそれぞれの興味・関心」に応じた多様な活動ができるよう、関係部局と連携して市町村等が取り組む部活動の地域移行を支援してまいります。以上でございます。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

次に、資料№.９の「いわてスポーツプラットフォーム」について、ご説明申し上げます。

これは、本年２月、つまり前回の審議会において、大元となる「文化・スポーツレガシープロジェクト」として資料提供をし、説明をしているものでございます。前回説明した部分と重複する部分もあるかとは思いますが、よろしくお願いします。

この「いわてスポーツプラットフォーム」ですが、いわて県民計画に「文化・スポーツレガシープロジェクト」として掲げているものの一環で取り組むものでございまして、「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の成果やラグビーワールドカップ2019釜石開催、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を通じたスポーツへの関心の高まりをレガシーとして次の世代につなげていくため、官民一体による推進体制を構築などにより、県内各地の特色や得意分野を生かした魅力あるスポーツのまちづくりを進め、県民が日常的にスポーツに親しみ、楽しみ、そして潤う豊かな社会の実現を目指します。」

取組の内容については、プロジェクトのねらいの下に記載しておりますとおり、６つの取組を予定して

おります。

また、推進体制については、その下に記載しておりますが、県が事務局となり、アスリートやスポーツ実践者等で構成し、スポーツの現場における課題提供や解決策等を助言する役割を持つ、「アドバイザリーボード」と、事務局と施策を企画・推進していく役割を持つ「プロジェクト推進チーム」による構成を想定しています。

また、この「いわてスポーツプラットフォーム」は、官民連携により相乗効果を発揮できるスポーツ推進体制の構築向けた取組でありますが、当面の重点項目として、資料の右側に記載しておりますとおり、３つの項目を重点的に取り組んでいく予定としています。一つ目としまして、大規模大会や合宿の誘致、二つ目はプロスポーツファンの拡大、三つ目はアスリートの県内定着でございまして、官民連携協働により、進めて参りたいと考えています。

今年度の具体的な取組としましては、資料右側の中央に記載しております。

細かい説明となりますが、まず、この「いわてスポーツプラットフォーム」の取組を進めるに当たり、国庫事業であるスポーツ庁の「地域スポーツ連携・協働再構築推進プロジェクト」を活用することになり、本県からスポーツ庁に対し、企画提案に手を挙げたところ、全国の４か所の事例のうちの一つに採択され、資料に記載のとおり、講演を含む全体会議並びにこれから実施する予定の県内３市町のモデル事業を展開する運びとなったものであります。

簡単ではありますが、以上で資料№９の「いわてスポーツプラットフォーム」の説明を終わります。

（平藤会長）

これまでの報告に対して、御質問はございませんか。

（中嶋委員）

中学校の部活動の方向性についてです。

来年度から、地域の事情に応じて、可能なところから進めていき、まずは月～金は部活動、土日は地域で、将来的には部活動を学校から切り離していくという方向性と認識しております。

先日の市町村教育長会議の中での情報ですが、ほとんどの市町村で受け皿、人材、費用等で苦慮していてなかなか進んでいないというのが実情だということがわかりました。

ここから私の考えを話させていただきます。正直部活動を、今まで生徒指導であるとか、子どもたちの意欲化といった面で学校運営に役立ててきた部分があったわけですが、部活動の無い学校は、私としてはなかなかイメージできないというのが今の正直な気持ちでございます。

生徒の面で考えると部活動をしない子どもたちが増えていくのではないかなと考えております。

教師の面からは、部活動に携わる先生と全く携わらない先生の、地域の受けとり方の違いが生じることや体育を目指す先生が減っていくのではないかなどと考えたりしています。

あと保護者の方からは、学校が関わらない活動にはちょっと不安を感じるという声もいただいております。

そしてやはり中体連です。この組織は、大変大きな組織で、莫大な先生方がかかわっているので、これがどのようになっていくのか。将来的にこれがなくなると私は岩手の大きな損失ではないかなと思っています。もう少し学校現場や、生徒、保護者、中体連の意見を吸い上げながら、理解を進めながら、課題

解決を図ることが大切ではないかと思っているところでございます。

質問ですが、地域移行は中学校だけで高校は全く対象外なのかということの確認と、これを所管するのは、文化スポーツ部なのか、それとも教育委員会なのか、確認したいところです。よろしくお願いします。

（菊池保健体育課総括課長）

地域移行につきましては、公立中学校の部活の地域移行ということで打ち出されています。ただし、概要につきましては、国立の中学校等でも、実情に応じて積極的に取り組むことが望ましい。さらに、公立及び、国立の高等学校等については、義務教育を修了し、進路選択した高校生等がみずからの意思で選択している実態等があるなか、各学校の事情に応じて改善に取り組むことが望ましい。併せて私立学校、学校等の事情に応じて適切な指導体制の構築に取り組むのが、望ましいと示されています。

併せまして、学校の運動部、支えきれなくなっている中学生等のスポーツ担当について、今後は学校単位から地域での活動に積極的に変えていくことにより、そうした中でも、将来にわたって、子どもたちがスポーツを継続して親しむことができる体力を確保する。これが学校教育の質の向上にも繋がり、学校の働き方改革も推進されるというふうに期待されているものでございます。地域移行につきましては、様々な課題も想定されているという状況でございます。

現在、国から示された提言の中での課題、令和３年３月、本県に示された提言の、スポーツのあり方の研究に関わるそれぞれの主体の役割であるとか、本県において１市２町と進めておりますモデル事業の、成果・課題等や、全国でも同様のモデル事業を展開しておりますので、様々なケースを参考にしながら、地域におきまして、よりよいものを選択していただきながら進めていくということでございます。

子どもたちにとって、持続可能で、多様な、望ましいスポーツ環境の構築に向け、関係局、学校地域、関係団体と一体となって整備していくものと認識しております。

県としての担当でありますが、現時点におきましては県教委・文化スポーツ部で、連携をしながら進めているところでございます。

（中嶋委員）

一戸町教育委員会文化スポーツ部を生涯学習・協働推進課が担当としておりますし、小中学校を学校教育課が担当しています。それぞれから調査が来ますと、どう対応すればよいかというところもありまして課をまたいだ検討委員会を立ち上げていかなければならないと考えておりますので、確認をさせていただきました。ありがとうございます。

（菊池委員）

中学校における部活動の方向性についてですが、少子化によって学校での部活動となってきたっていうことは、ちょっと寂しいことだなと思っております。

私たちの時にはもう、たくさんクラブに入ってやめさせる方向性を考えながら、厳しくやってきたのを皆さんの話を聞きながら思い出しました。

スポーツを支えている子ども達が、例えばサッカーをしたいけど、入る学校にはサッカー部がない。では、サッカー部にある学校へ入学しようということで、遠くから送り迎えをしているのが現状です。

休日の部活動を徐々に地域に移行するという部分ですが、この資料の8の⑵の周知などの情報提供とい

うことで、公益財団法人岩手県体育協会における説明ということでありますが、例えば体育協会では、この部活動の方向性については、どのように話が出ているのかと。

例えば卓球協会の方で卓球したいと思っている子どもたちが練習を一緒にし、卓球をしている先輩たちと一緒に強くなっていくという形で出来たらいいと私は思っています。今体育協会ではどのように思っているのかというのを聞きたいと思っております。よろしくお願いします。

（平藤会長）

お答えしてもよろしいでしょうか。

体育協会といたしましては日本スポーツ協会もそうですが、基本的には指導者の育成と、技術向上、資質向上、そしてデータベース化をした派遣ということを考えています。従いましてどんどん公認指導者を作ってくださいということ、変化に対応できる力を蓄えてくださいということを主眼として行っております。あとは御紹介になりますが、データベースを作って行うというものもありますし口コミでというのはありますが、競技団体を通じてそういうのをやってくださいというのが私自身の話です。

それからもう一つですが、総合型地域スポーツクラブというのも、手前どもでは所管しておりまして、そこでできないかというようなお話をさせていただいております。ただ、現状では、部活動をそのまま受け入れる力が現段階であるといえる総合型地域スポーツクラブはほとんどございません。

そちらの養成も合わせて行っていくということになります。

県体育協会としては、指導者の養成確保、それから場としての総合型地域スポーツクラブの育成、この２点をやりましょうというのを申し上げております。

それぞれの市町村を、競技団体がこういうことしてくださいというところまでは手が回っていないというのが事実です。

（菊池委員）

ただスポーツクラブのない市町村もあり、誰が助けていくのかということになると、体育協会の中に入っている競技団体が作っていかなければ、子どもたちはスポーツをやらなくなっていくのではないかと不安を感じております。

スポーツクラブの中で指導をするといっても、会費を払っていろいろやっていくという形になると、ますます親たちも、経済的には大変なことになり、子どもたちはスポーツを離れていくのではないかと心配しているところです。

（内城委員）

何度も発言すみません。岩手スポーツプラットフォームについて、意見を述べさせていただければと思うのですが、プラットフォームがスポーツ界のためのプラットフォームになってしまうとちょっともったいないかと思っております。岩手県全体もしくは社会の広がりを持つプラットフォームになってもらえればと思いました。

そこで、プラットフォームで目指す姿の大前提のところに、県内各地の特色あるまちづくりとありますが、そこにもう一つ付け加えて、「まるまる岩手が元気に幸福になる（岩手スポーツプラットフォーム）」みたいなキャッチがあっていいのではないかと思いました。

さらに、４つの目標が書かれていますが、そこに矢印を伸ばして、岩手県民計画アクションプラン作成趣旨にあります、「県民一人一人がお互いに支えあいながら、幸福追求していくことができる地域社会の実現」という文言を付け加えるとよいのではないかと思いました。

（菅委員）

日本スポーツマスターズ大会が３年ぶりに開催され、次は福井で開催されます。

今回コロナ対策をしての課題、問題点を県のレガシーとして、きちんと伝えてもらいたい。スポーツ医科学委員会のメンバーや参加者から医療救護の体制の課題が挙がっておりましたので、福井につなげるようよろしくお願いします。内容に関しては、後ほどメールを差し上げます。

次の１点ですが、岩手八幡平での国民体育大会について、県医師会で医療救護をしており、県のスポーツ医科学委員にもお願いをしていましたが、なかなか土曜日が埋まりません。そこで県の医療局にもお願いをしていましたが、よく聞いたところ、県立病院はコロナ対応で出せない状況のようです。そこら辺のところも確認しながら、ぜひこの医療体制を確立していただきたい。

次に救急車の体制についてですが、八幡平では離れた会場もあり確保が困難な面もあるのではないかと考えており、体制をきちんとしなければならないと思っておりますので、よろしくお願いします。

最後に１点、この前の栃木国体のドクターミーティングででた話ですが、栃木県は、今回天皇杯、皇后杯でトップになりました。次に掲げた目標が、児童生徒の体力を全国でトップにするということ。また、平均寿命を健康寿命にしていきましょうという宣言が初めてなされました。実は国体の先にこのようなビジョンがあるのだということも踏まえて、この先、レガシーの継承をよろしくお願いします。

（綱島委員）

中学生の部活動について、バレーボールで説明していきます。

バレーボールを通じて人間性を成長させていきたいという、どちらかというと教育に寄った指導をしています。岩手にはたくさんスポーツ選手が出ていますが、幼少期、様々な競技をしていると聞いていたので、どのような競技（１つだけではないと思われますが）をしてきたのかに興味があります。勝利至上主義というか、勝ちたいというのがどうしても出てきているので、小学校・中学校のところで、ストイックに競技だけにいってしまわないように、現在活躍している選手たちがどのような幼少期を過ごしたかというような聞き取り等を公表していただくと、指導者も親御さんも子どももより大きく選手が成長するために価値観が変わるといいのかなと感じております。

石川祐希選手の御両親からお話を聞いたのですが、小学３年生までは野球をやっていたということでした。一つの競技だけであそこまでの選手になったのではないという一つの事例ですが、せっかくいい選手が出ているので、実際の例としてあると、親御さんも少しは気持ちにゆとりをもってスポーツに携われるようになるのかなと思います。

（菊池保健体育課総括課長）

御意見ありがとうございます。

現在生徒の運動時間が男女ともに二極化傾向にあります。中学生女子の運動時間が減少傾向にあるという課題等があります。生徒のスポーツニーズにつきましては、競技力の向上以外にも友達と楽しめる

や、適度な頻度で行える等、多様なものがあると認識しております。

具体的な例といたしましては、より多くの生徒の運動機会の創出が図られるように、例えば季節ごとに異なるスポーツを行う活動であるとか、競技志向ではなく、レクリエーション志向を行う活動、体力作りを目的とした活動、生徒が楽しく活動を行う習慣や動機付けとなるものが、考えられます。

併せて、競技力向上志向の生徒と、競技種目を楽しみたい生徒が一緒に活動していくことが求められております。様々なケースがございます。生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実に取り組みを進めていきたいと考えております。

（平藤会長）

それでは、以上をもって報告を終了させていただきます。

円滑な進行に御協力をいただきまして、ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

６　その他

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

平藤会長、ありがとうございました。それでは、次に「６　その他」でございますが、委員の皆様から何かございますか。

（平藤会長）

条例で設置しているこの審議会は県の付属機関なのですが、やはり部長・副部長、総括課長は事情がございますが、そのような方にずっと席に座っていただきたいと思います。

このように盛り上がった会議ですが、中身が伝わることは信じておりますが、次からは、出席可能な日程を選んでいただきたいと思います。不可抗力であれば結構です。

（佐藤生涯スポーツ担当課長）

承知いたしました。それでは、事務局から御案内いたします。次回の審議会は、令和５年２月の開催を予定しております。開催については、改めて御案内を差し上げますので、よろしくお願いいたします。

７　閉会

（佐藤生涯スポーツ担当総括課長）

委員の皆様、長時間にわたる御審議ありがとうございました。それでは、本日の審議会はこれをもちまして閉会といたします。本日は、ありがとうございました。